

御船城山少年野球クラブ

公

式戦での勝率が7割を超え、各地の招待野球を含めて6大会で優勝を飾った―

平成22年シーズンを驚異的な強さで終えたのは、御船城山少年野球クラブだ。

過去には、スポーツ少年団軟式野球大会で、全国大会3位の実績を持つ伝統の古豪チーム。健全な野球少年を育成して、有能な高校球児を数多く輩出してきた名門でもある。

選手たちは、町内の小学校を中心に在籍し、週6日の練習に汗を流している。そんな彼らの野球シーズンは、2月から12月までと長く、1年間のほとんどをグラウンドで過ごしている。試合は、公式戦、招待試合、練習試

合のすべてを合わせると年間80試合を数えるという。

そんな城山クラブで采配をとるのは、藤本健二監督だ。

「今シーズンは、バッテリーを中心に、守備が安定していました。城山クラブは昔から『守る野球』がモットーです」とシーズンを振り返る。

城山クラブは、野球以外に地域への貢献も忘れない。御船川の清掃活動や、があーっぱ祭り翌日に早朝のごみ拾いを、長年実践している。

藤本監督は、「地域に住んでいる以上、町の環境を学んでもらうことも大事。ごみを捨てないように考えてもらい、人として内面的な育成も必要です。今後は、国道443号の清掃も考えています」と地域環境も視野に見据える。

城山クラブの選手たちは、野球や地域を通して、あいさつ、礼儀、感謝の気持ち、物を大事にするを自ら学び成長していく。だからこそ、保護者や地域からの協力や信頼が絶大だ。

城山クラブは今、2月からの新シーズンに向けて、本拠地の御船町民グラウンドで始動している。今年も城山クラブの野球から目がはなせない―

◎招待野球（優勝のみ）

甲佐あゆまつり

決 勝 ○3－2 宇土イースターズ（宇土市）

ハヤカワ旗

決 勝 ○5－2 一新少年野球クラブ（熊本市）

嘉島ダイヤモンド旗

決 勝 ○12－3 小川キングリバーズ（宇城市）

御船ライオンズクラブ

決 勝 ○3－1 嘉島西少年野球クラブ（嘉島町）

鏡（5年生の部）

決 勝 ○17－1 中島サンダース（熊本市）

◎公式戦

上益城郡新人戦（優勝）

決 勝 ○7－2 広安少年野球クラブ（益城町）

高円宮賜杯郡大会（ベスト4）

準決勝 ●5－6 広安西少年野球クラブ（益城町）

熊日杯郡大会（ベスト4）

準決勝 ●1－5 嘉島西少年野球クラブ（嘉島町）

スポーツ少年団郡大会（県大会出場）※決勝戦なし

準決勝 ○6－1 広安西少年野球クラブ（益城町）

九電旗郡大会（ベスト4）

準決勝 ●0－3 嘉島西少年野球クラブ（嘉島町）

スポーツ少年団県大会（3位）

準決勝 ●2－9 一の宮マリンス（阿蘇市）

野球や地域を通して学ぶこと
あいさつ、礼儀、感謝の気持ち
ずっと変わらぬ「城山野球」



◎DATE

みふね・しろやま

しょうねん・やきゅう・くらぶ

監 督 5代目・藤本健二

コー チ 徳永直幸、田中洋一、中村和也

部 員 34人

御船小学校ソフトボール部が前身となり、昭和50年4月に創部。昭和57年、全国スポーツ少年団軟式野球大会で3位入賞の快挙を成し遂げる。伝統のチームカラーは守りの野球。本拠地は、御船町民グラウンド。練習は、火曜日から日曜日までの週6日。入部は、町内の小学校に通う児童であれば可能で、見学は自由

